

国際化フォーラム「地域と共に！未来へ！」

ERINA 企画・広報部長
中村俊彦

設立25周年を過ぎた ERINA ができたのは1993年、翌94年には新潟国際情報大学が開学して今年が25周年、2003年にはいがた産業創造機構(NICO)が設立した。それぞれが一区切りの節目を迎え、新潟港も開港150周年を迎える中で、それぞれが目指す国際化について一緒に考えてみよう、このフォーラムを開催することになった。

4月26日(金)、新潟日報メディアシップ日報ホール(新潟市中央区)を会場とし、ERINA、NICO、新潟国際情報大学の3者が共同主催するのはこれが初めてのこととなった。

プログラムは前半、テレビの報道番組などで活躍するコメンテーターの川村晃司氏による基調講演「国際社会の中の新潟」を行い、後半はERINA、NICO、新潟国際情報大学のそれぞれから、新潟の「国際化」、「産業拠点作り」、「国際人材作り」に向けてどのような活動をしている

のかを発表し、それを踏まえ、新潟がこれからどのような方向に向かうことができるのか、その将来をとともに考えるパネルディスカッションとした。

川村氏は、自らのジャーナリストとしての国際経験を踏まえ、一つの価値観やシステムが席卷するようなグローバル化ではな

く、多様な価値観を尊重するような国際化の中で、新潟の地理的優位性や独自の文化を生かしながら、創造力や洞察力を備えた国際人材の育成に取り組むべきことを訴えた。

パネルディスカッションでは、ERINA 経済交流部経済交流推進員の蔡聖錫が



ERINA の国際人材活用事業である留学生のための就職相談会「国際人材フェア」について発表し、同事業を通じて就職した hakkai ㈱の呉茜氏が自らの体験談を報告した。NICO からは、パリで立ち上げた新潟県のアンテナショップ「Kinase」を運営する㈱グラムスリー代表取締役の坂本明氏とそのコンセプトや展望を述べ、

吉乃川㈱代表取締役の峰政祐己氏が「Kinase」などを活用した日本酒の国際展開の考え方を提案した。新潟国際情報大学からは、藤田美幸准教授が「国際交流ファシリテーター」事業や英語を活用した人材育成について報告し、同大学4年の齊藤一貴氏がその体験談を述べた。コーディネーターは新潟日報社論説委員

の大塚清一郎氏が務めた。

満場の席を埋めた200人余の来場者各位に主催者の一員として感謝申し上げるとともに、パネリストや参加者の一人一人が、国際都市・新潟でおおいに活躍できるような地域の未来を望みたい。